

6. 水源地域ビジョン推進の体制と仕組み

6.1 新たな推進組織の体制と仕組み

七ヶ宿ダム水源地域ビジョンの実現にむけて、「水守の郷まちづくりネットワーク（以下、水守の郷ネットという）」を中心に「水環境を守るルールづくり」、「木を見て森もみる水づくり」、「食材を活かした仕事づくり」、「水守の郷の仲間づくり」の4つのモデルプロジェクト等の有機的な取り組みが展開できるよう新たな推進体制と仕組みを構築していきます。

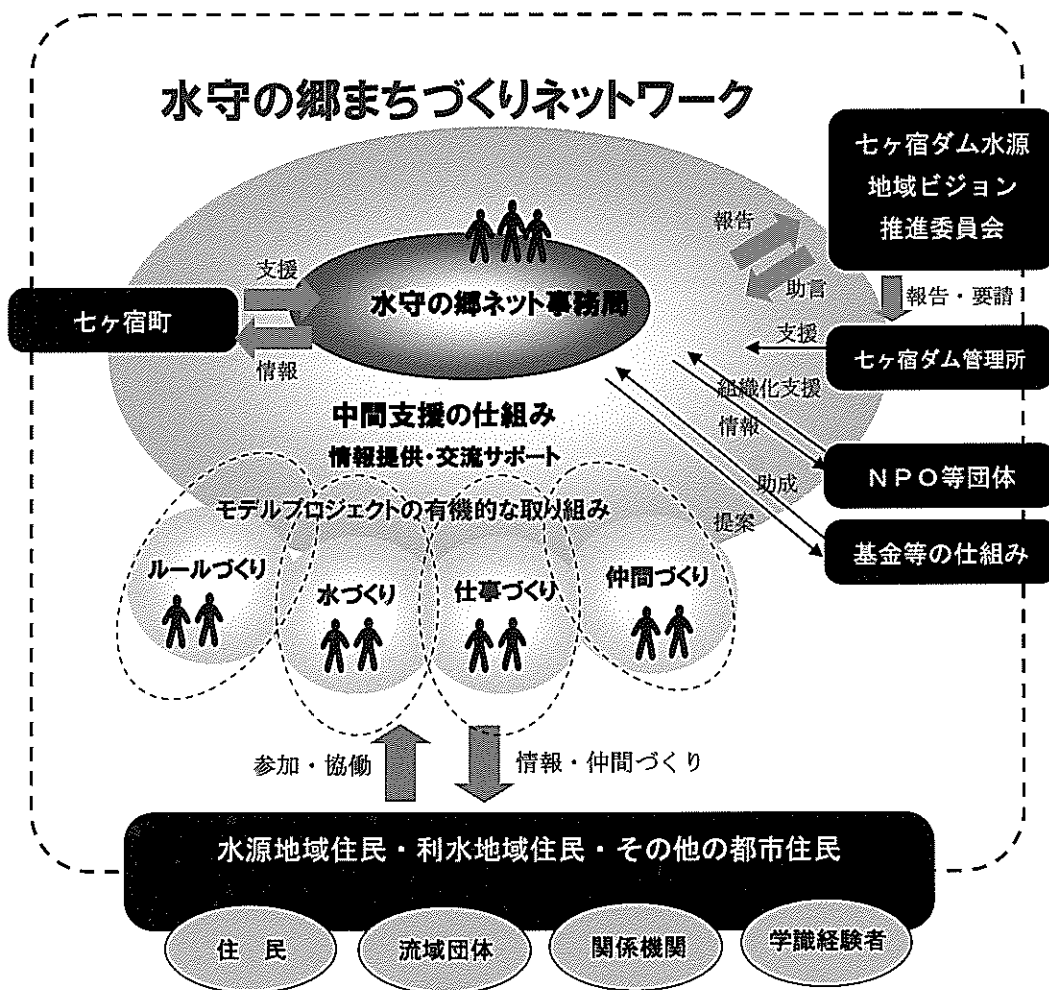


図7 推進組織の体制と仕組み

6.2 推進組織の役割と連携

セケ宿ダム水源地域ビジョンの実現にむけて、水守の郷づくりに関わる多様な主体との協働に努めつつ、中間支援組織の「水守の郷ネット」が効果的に機能するよう、相互の役割を分担してビジョンの推進を図っていきます。

(1) 多様な主体の協働による推進

水守の郷ネットは、ビジョン策定に関わった個人・団体を中心に、流域（水源地域・利水地域・その他の都市地域）の市民、行政、関係機関等の自発的な参加を求めて、中間的な機能を発揮していきます。また、水守の郷ネットと推進委員会は、相互に連携・補完し合いながら、ビジョンを推進していきます。

(2) 推進組織の役割と連携の考え方

①水守の郷まちづくりネットワーク

水守の郷ネットは、水源地域ビジョンの施策やモデルプロジェクトの推進に向けた企画や試行的な取り組み等をコーディネートします。

また、ビジョン策定に加わったメンバーを中心に発起人会を組織して、ビジョンの周知、広報・PR等を行い、多様な担い手組織の活動の仲介やサポート機能の充実に取り組みます。

◇情報提供、情報の受発信、広報PR

- 例えば
- ・一年間のイベント情報の一元化、連携による相乗効果の発揮・セケ宿、水守ネット、関係機関等の活動を紹介するHP充実
 - ・水道料金領収書へのメッセージの追加、つなぎの機能強化 等
 - ・ロゴやトレードマーク、キャラクターの製作 等

◇人材育成、研修プログラム等による啓発

- 例えば
- ・体験コーディネーター等の講習会の開催
 - ・宝物を解説できる案内人、語り部等の育成
 - ・スポンサー、ファンクラブ等の応援団の獲得 等

②水源地域ビジョン推進委員会

推進委員会は、ビジョンの進捗状況について確認し、推進方法などについてネットワークに助言を行い、行政支援等について要請を行います。

◇水守の郷ネットの活動支援

推進委員会の各委員は、水守の郷ネットに任意で参加し、関連する施策や行動計画の実践および支援に努めていきます。

◇外部のエネルギーを取り組み、地域の実践力を向上

推進委員会は、外部の住民・NPO等団体がビジョン推進に参画し、地域の実践力がより高められるよう関係づくりを支援していきます。

◇成果の確認と見直し等の検討

推進委員会は、行動計画の推進の現状や課題について推進組織から報告を受け、途中の成果の確認や変更の必要性、見直しについて検討します。

③行政、関係機関

水源地域の自治体、利水地域の市町村、および関係機関は、水守ネットの活動を支援する主体として協働でビジョンの推進に取り組みます。

水守の郷ネット及び推進委員会からの報告や要請により、行政、関係機関が自ら取り組める内容かどうか判断し、その結果について情報提供します。

6.3 委員会からの推進方策への提言

策定委員会で提言された今後の推進方策は、以下のとおりです。

(1) 水源地域と利水地域の相互理解を深めるパートナーシップ形成に向けて

◇ターゲットを明確にして行動していく

- ・水の大消費地である仙台都市圏の市民及び企業に、水源地域における水環境保全の大切さを十分に理解してもらえよう働きかける。

◇行動を具体的な結果につなげていく

- ・「クリーンキャンペーン」や「水の感謝祭」等の啓発活動の仕掛けのなかで、実質的に地域住民の意識が高まるよう行動を展開する。

(2) 持続可能な森林経営を成り立たせるシステムづくりに向けて

◇消費者の理解を促す交流に着目していく

- ・単に木材を提供するだけではなく、「癒しの森」や「山の学校」等の仕掛けのなかで消費者と林業従事者がふれあい、一緒に活動しながらお互いに理解し合える仕組みを構築する。

◇生産から、加工・販売までの体制を整えていく

- ・木の生産活動と加工品の製造、地場産材を活用した木の家づくり等の企画・設計、販売促進などに対応できる専門集団を形成する。
(例えば、貸し森林等の体験から木の家づくりまで)

(3) 食という魅力資源を活用したさらなる交流の仕掛けづくりに向けて

◇地元の人々が気づいていない魅力を交流のなかで再発見していく

- ・そこに住んでいない人にとってみれば驚きを感じるような郷土料理の再発見やもてなしを通して、新しい地域の名物・名産を売り出す。
(例えば、大滝の売店にあるおはぎ)

◇積み重ねの結果で個性が形づくられていく

- ・山菜採りや料理の名人等の専門的な知恵や知識をもった人々との情報交換を積み重ねることにより、地域の個性を形づくる。

(4) 言いだしっぺとそれを支えるサポーターによる機運づくりに向けて

◇まず、お互いの保有する資源を点検していく

- ・ネットワークの形成では、まず、多様な主体のそれぞれがどういう資源を保有しているかを確認し合うための資源点検を行う。

◇実施主体間のつなぎの機能を明確にしていく

- ・3つのプロジェクトに対して、どの部分に「水守の郷ネット」や「関係機関」等のネットワークが関与し、支援できるかを明らかにする。

◇目に見える形で地域の一体感を演出していく

- ・住民の理解や共通認識を得る手段として、ロゴ、トレードマーク、キャラクターなどを考案し、地域の一体的な取り組みを演出する。

これらの(1)～(4)の策定委員会で提言された意見・キーワードを参考に、今後の推進のための議論のたたき台となるシステム像を事務局において作成しましたので、詳細は資料編を参照ください。